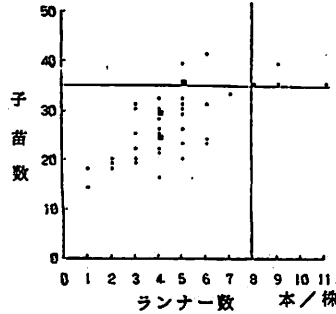


課題名	4 イチゴの低温処理育苗による新促成作型の開発 と安定多収生産技術の確立		分類	①
	(1)イチゴ‘とよのか’の親株の保温によるランナー 発生促進法			
試験研究 年次	63～1年(完了)			
I 目的				
夏期低温処理栽培で11月から収穫を始めるには、苗を5月末までに準備 する必要があり、そのためには、ランナーを早期から発生させる技術が望 まれる。そこで、親株に対するマルチとトンネル及びべた掛け等がランナ ー発生促進に及ぼす影響を明らかにし、夏期低温処理栽培用苗を安定的に 確保出来る技術を確立する。				
II 試験方法				
1 供試品種 とよのか				
2 試験区の構成				
年度	要 因	処 理 内 容		
63年	マルチ	有, 無		
	べた掛け	有, 無		
1年	マルチ	有, 無		
	べた掛け	種類(白, 黒), 被覆時期		
	開孔ビニルトンネル	被覆開始と終了時期はデータの第2表のとおり		
	親苗の大きさ	2年苗, 大苗, 中苗, 小苗		
注) ① マルチは黒色ポリマルチ, ② べた掛け資材はハスライ ③ 開孔ビニルはユラク換気8号(開孔率6%)				
3 試験規模 1区 5株 2反復				
4 耕種概要				
(1) 親株養成法 おつ育苗用の苗を植え付け時期まで養成				
(2) 植え付け時期 63年: 11月20日, 1年: 11月25日				
(3) 栽植密度 畝幅200cm 株間30cm 1条植え				
(4) 施肥量(基肥) 10a 当たり N=10kg, P ₂ O ₅ =10kg, K ₂ O=10kg				
III 主要成果の概要				
親株を黒色のポリマルチと開孔ビニルトンネルまたは不織布のべた掛け と併用して保温することで、早期からのランナー発生を促し、5月末まで の採苗数を従来の2倍の数(20子苗/親株)まで安定的に確保できる。				
(1) 1親株当たり4月末で8本以上、5月中旬で15本以上のランナーが 確保できると、5月末には20子苗/親株の採苗が可能である。				
(2) マルチングすると親株からのランナーの発生が早期から促される。				
(3) 開孔ビニル被覆は被覆期間が長いほどランナーの発生は促進するが、 年内から3月中旬までの被覆でも実用上は十分である。				
(4) べた掛けもランナー発生促進に有効で、資材は白色が黒色より優れ、 被覆期間は長い方がよい。				
(5) 親株は大苗を年内に植え付けることでランナー発生は安定する。				

IV 主要成果の具体的データ



$$Y = 12.234 + 1.409X_1 + 0.889X_2$$

$$r = 0.741$$

- 注) ① Y = 5月末の発生子苗数/親株
 ② X_1 = 4月30日の発生ランナー数/親株
 X_2 = 5月16日の発生ランナー数/親株
 → 上式より、1親株当たり20個以上の苗を採苗するには、適苗率(56.5%で計算)を考慮し、4月30日に7.19本/株のランナー数が必要。
 ③ 適苗率: 鉢上げに適する本葉2~3枚の苗の割合

第1図 4月末のランナー発生数と5月末の子苗数(63年)

第1表 マルチンク及び開孔ビニールのトンネル被覆とランナー発生数 (1年)

マルチンク	開孔ビニール	調査日					
		3月1日	3月15日	3月30日	4月14日	5月1日	5月15日
無	無	0	0.1	0.8	4.9	7.5	10.1
無	有	1.9	2.8	5.6	9.2	13.0	16.5
有	無	0	0.4	1.6	5.4	10.9	14.7
有	有	2.2	3.5	6.0	8.9	14.0	17.9

注) ランナー発生数は親株1株当たり(以下同じ)

第2表 開孔ビニールのトンネル被覆時期とランナー発生数 (1年)

開孔ビニール被覆時期	調査日					
	3月1日	3月15日	3月30日	4月14日	5月1日	5月15日
無	0	0	0.8	5.0	10.7	14.7
12.25 ~ 2.10	0.7	0.7	1.1	5.2	10.4	15.3
12.25 ~ 3.10	1.0	1.8	3.5	8.5	16.7	19.4
12.25 ~ 4.10	0.4	1.4	4.1	9.4	16.4	20.7
12.25 ~ 5.10	0.6	1.8	4.8	10.1	16.9	21.7
2.10 ~ 5.10	0	1.0	2.8	8.3	13.6	18.4
3.10 ~ 5.10	0	0	2.1	7.5	13.4	16.6
4.10 ~ 5.10	0	0.2	2.0	6.6	12.9	18.0

注) ① 開孔ビニールはJ-ラク換気8号(開孔率6%)
 ② 全区とも黒色マルチ(11月25日以降)

第3表 マルチンク及びべた掛け被覆とランナー発生数 (63年)

マルチンク	べた掛け被覆	ランナー発生数			
		4月14日	4月30日	5月16日	5月30日
無	無	0.2	2.5	6.8	11.8
無	有	1.3	3.6	8.0	12.3
有	無	0.9	3.5	8.3	13.1
有	有	1.8	5.6	10.6	16.9

注) べた掛け資材はハスライト(白色)

第4表 親苗の大きさとランナー発生数 (1年)

苗の類	調査日					
	3月1日	3月15日	3月30日	4月14日	5月1日	5月15日
小苗	0	0.1	0.6	5.6	12.1	17.5
中苗	0	0.4	2.9	6.2	13.9	19.4
大苗	0	0.5	0.8	5.8	14.6	19.9
2年苗	0	0.1	0.5	5.9	14.7	21.5

注) 小苗: 本葉6~7枚の苗, 中苗: 定植の残り苗,
 大苗: 8月上旬に7号鉢に植え付けた苗

V 成果の評価と取扱上の留意点

夏期低温処理栽培の安定的な苗確保技術として活用出来る。

VI 今後の研究上の問題点

VII 資料名

63~1年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 野菜試験成績書